

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告書

ピア養成研修ワーキンググループ報告

ピア養成研修ワーキンググループ長 秋月 伸哉

がん感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長

A. 目的

本 WG の目的は、すべての都道府県で継続的に進め、実際の活動につなげることができるピアサポーター養成プログラムを開発することである。厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」（2018年度）でピアサポーター研修プログラム、並びにピアサポーター養成テキストが作成し、パイロット版の研修を実施した。

本年度は開発されたプログラムが各都道府県で実装できるようにするため、下記を行った。

B. 経過

1. ピアサポーター養成テキストの改訂

大幅な改定を行わず、表現の微細な修正にとどめた。

また活動を振り返るための記録用紙の例があったほうがよいという利用者の声から、複数の都道府県で利用されている記録用紙のサンプルを追加掲載することとした。

2. ピアサポーター養成研修会運営マニュアルの作成

今後、各都道府県で養成研修会を開催できるようにするため、養成研修会開催の準備（予算、必要な会場など）、当日のプログラムに沿った運営方法（準備物品、机の配置、ファシリテーターの役割など）をマニュアル化した。

昨年度、グループファシリテートの技術が短時間で扱うのが難しいが、現場のニーズは高く、本研修プログラムで扱うかどうかが課題として挙げられた。委員会で議論し、原則プログラムとして扱うが、開催地域のニーズに合わせて他のプログラムに差し替えることもできることとした。

3. 都道府県主催でのピアサポーター養成研修会の実施

各都道府県にピアサポーター養成の準備状況、モデル事業としての開催について希望を確認し、希望のあった三重県で開催することとなった。2018年に開発した講義、ロールプレイ、グループワークからなりピアサポーターと医療・行政担当者が参加するプログラムだが、事前の打ち合わせで、三重県のピアサポート活動状況からグループファシリテートのセッションを全体討論の時間に差し替えた。

2020年2月9日、16日にピアサポーター養成研修会（日本サイコオンコロジー学会主催、三重県共催）を実施した。2月9日34名（ピアサポーター19名、医療・行政担当者8名、見学者7名）、2月16日28名（ピアサポーター19名、医療・行政担当者6名、見学者3名）が参加した。

参加者は2日間で10単元のプログラムに参加したが、いずれのプログラムも90%以上が有用であると事後アンケートに回答した。自由記載内容について代表的な意見を以下に示す。

（アンケート結果から一部抜粋）

プログラムの構成について

- ・内容が濃く、わかりやすく、気が抜ける暇がなかったですが、休憩も適度がありました
- ・2日間大変でしたが必要なプログラムと感じました

難しい内容はありましたか？

- ・ロールプレイは難しかったが、他の方々のロールプレイを見せてもらい、丁寧な振り返りがとても勉強になりました

- ・ロールプレイが自分の体験と重なりすぎた。
- ・がん対策基本法についての基礎知識が薄く理解するのにやや苦労した

追加してほしい内容はありますか？

- ・実際のサポート例をもとに話し合いをしたい
- ・行政・医療者・ピアサポーターが意見交換する時間

その他

- ・ピアサポーター同士の交流時間が欲しかった
- ・ピアサポートを理解する良い機会になりました
- ・三重県の患者サロンは知られていない

アンケート結果から、おおむね妥当なプログラム構成であることが想定された。参加者の背景（ピアサポーターとしての経験の有無、個人的な体験）から、より高度な内容を求める参加者や、心理的負担に配慮を要する参加者への対応を検討する必要があると思われる。

4. ピアサポーター養成プログラムの修正

三重県での研修会開催で気づいた問題についていくつかの修正を行った。

- ・テキストの記載順に合わせたプログラム順の変更
- ・医療・行政担当者向けスライドの追加
- ・講義「医療・行政がピアサポート支援でできること」をピアサポーター向けに行うプログラムを追加

C. 考察

2018年度に開発されたテキスト、プログラムをもとに、テキストの一部改訂、サポーター養成研修会開催マニュアルの開発、研修会プログラムの一部修正を行った。また昨年度（全国から参加者を募集）より、今後の開催実態に近いかたち（都道府県で募集）で、三重県でのピアサポーター養成研修会を実施した。最終的には三重県での研修会開催で問題点の洗い出しを行ったが、大きな問題はなく、微細な修正にとどまった。

今後検討すべき課題として以下が挙げられた。

- ・プログラム作成者以外が研修会を運営できるか、もしくは熟練者が研修会開催をサポートする体制を整えるべきか。
- ・ロールプレイシナリオ追加（AYA世代などサポーターと背景が大きく異なる利用者への対応）
- ・スキルが高い参加者向けの工夫（自分の体験を語る際のテーマ設定など）